

①スペルト小麦とは・・・

まだ認知度が低いスペルト小麦ですが、ネットではスペルト小麦の事を記載しているページも結構見受けられます。

スペルト小麦普及委員会として改めて「スペルト小麦」とは何か？を少しご説明させていただきます

②まず麦とは・・・

基本的に麦という種はありません。麦はイネ科のなかのいくつもの連や属にまたがる穀物の総称です。

一般の方がまず「麦」と言って思い浮かばれるは、

小麦・大麦・ハト麦・ライ麦・カラスムギ・・・など

野生植物に造詣が深い方は

イヌムギ・ネズミムギ・エゾムギ・ハマムギ・ゴボウムギ

農業関係のかたですと・・・

小麦・大麦・裸麦・ビール麦

でしょうか？実に多様な種類があります。

基本的には秋に播いて翌年の春に収穫する二年草のイネ科の穀物となります。

ただしこれは栽培品種には当てはまらなかったり、そして収穫の季節については、地域差特に海外の事も考慮して銘記しています。あくまで麦という植物としての概念としてです。

③小麦とは

日本語の「小麦」これも単一の生物種ではなく、複数の種の総称です

正確には

イネ科の中のイチゴツナギ亜科、コムギ連に属するコムギ属に含まれる一群の植物となります。

このコムギ連には、オオムギ属、ライムギ属含まれ、私たちにとって重要な栽培品種が多く含まれています。



■パンコムギ



■エンマーコムギ



■タルホコムギ



■クサビコムギ

それではこの中のコムギ属の中を見てみましょう

伝統的な分類で表して見ました。21の種を代表的な種として書き出すことが多いようです。

二倍性 (2n=14)

[一粒系コムギ]

■野生一粒系コムギ	野生	脱穀性	難
■ウラルツコムギ	野生	脱穀性	難
■栽培一粒系コムギ	栽培	脱穀性	難

四倍性 (2n=28)

[二粒系コムギ]

■パレスチナコムギ	野生	脱穀性	難
■エンマーコムギ	栽培	脱穀性	難
■グリジアコムギ	栽培	脱穀性	難
■ペルシアコムギ	栽培	脱穀性	易
■リベットコムギ	栽培	脱穀性	易
■ポーランドコムギ	栽培	脱穀性	易
■マカロニコムギ	栽培	脱穀性	易
■オリエントコムギ	栽培	脱穀性	易
■アビシニアコムギ	栽培	脱穀性	易

[チモフェービ系コムギ]

■アルメニアコムギ	野生	脱穀性	難
■チモフェービコムギ	栽培	脱穀性	難

六倍性 (2n=42)

[普通系コムギ]

■スペルトコムギ	栽培	脱穀性	難
■マツハコムギ	栽培	脱穀性	難
■バビロフコムギ	栽培	脱穀性	難
■パンコムギ	栽培	脱穀性	易
■クラブコムギ	栽培	脱穀性	易
■インド矮性コムギ	栽培	脱穀性	易
■ジュコブスキーコムギ	栽培	脱穀性	難



■一粒系コムギ



■アルメニアコムギ

④小麦の歴史は？

ネットで良く見かける「スペルト小麦」＝「古代コムギ」これについてのいろいろ思う所があり自分なりに勉強してみました。

正しく理解してスペルト小麦の良さをお伝えするためと思います

簡単に小麦の歴史を書いてみます。その前に以下の5つの小麦の品種を出しておきます。

以下のお話の中に出てくるので最初にご紹介しておきます。

- 1 野生一系コムギ（二倍性・野生種）
- 2 パレスチナコムギ（四倍性・2粒コムギ・野生種）
- 3 アルメニアコムギ（四倍性・チモフェービ系コムギ・野生種）
- 4 クサビコムギ（二倍性・野生種）
- 5 タルホコムギ（二倍性・野生種）

※各コムギの画像探してみました。パレスチナコムギは無いようです。

普通系コムギの歴史

野生一粒系のは約1万年前の遺跡から発見されており、おそらく人類は食糧として利用していたと考えられます。その後約9千年前の遺跡より栽培一粒系コムギが発見されているのでおそらくコムギの栽培化が始まったと考えられます。

この一粒系コムギ（二倍性）と祖先野生種のクサビコムギ（二倍性）が自然交配でアルメニアコムギ（四倍性）・パレスチナコムギ（四倍性）の共通の祖先（四倍性）が生まれこのパレスチナコムギ（四倍性）栽培化されて、自然交配により同じ二粒系のエンマーコムギ（四倍性）が生まれたと考えられています

では、六倍性を持つ普通系コムギはどうやって生まれたのか？

すでに栽培が始まっていたエンマー小麦（四倍体）とその圃場の近くに野生で自生していた祖先野生種のタルホコムギと自然交配で生まれたのが普通系コムギと考えられていますそしてその普通系コムギが同時期に栽培されていたと思われるエンマー小麦や自生していたタルホコムギとさらに自然交配を繰り返して上記に記載したいわゆる普通系コムギが生まれてきたと考えられるようです。

そしてこのエンマーコムギの母性遺伝する葉緑体 DNA を調べると2種類の母系が確認でき、世界の普通系コムギの約68%がこの一方のDNAを持っていることが確認できるようです。

そして初めてここで「スペルト小麦」が登場します

タルホコムギのもう一方の母系DNAを約30%もつのが「スペルト小麦」だということですおそらく普通系コムギが各地で発生しその一部が中部ヨーロッパに持ち込まれ栽培されていた物がどこかの地で第二母系を持つエンマーコムギと自然交配して生まれたものとDNA解析結果として考えられるようです。パンコムギは第一母系しかDNAは持っていませんが、

スペルト小麦はどちらのDNAを持っている普通系コムギとうい事です

小麦の栽培植物として重要な形質の一つ「難脱穀性/易脱穀性」に母性遺伝DNAが関係している可能性もありますよね、パンコムギは「易脱穀性」スペルトコムギは「難脱穀性」です。

一応上記21種類に脱穀性の難/易記載してあります

麦・小麦の研究は「生物学」「風土」「歴史」「文化」から捉えた研究が盛んに行われています
特に普通系コムギの由来については、年代、場所、経緯については、いろんな学説もあるようです

ただ大まかの所は以上、記載した所ようです。

※もし「この記載は間違いだよ」があれば是非ご指摘お願いします

⑤再度スペルト小麦=古代小麦について

そのままの姿でスペルト小麦が今まで残っているとは考えにくいのが事実です

私たちも実は安易に「古代小麦です」と言ってきましたが、ちょっと違うかも知れませんね

ある意味間違いではないと思いますが、言えることは

大昔にヨーロッパに渡った普通系コムギの古代品種スペルト小麦がさらにヨーロッパで自然交配を重ね
ヨーロッパ各地で栽培されている物（地域伝統小麦みたいな品種）があったのを、ドイツの種苗メーカー
が見つち、さらに独自の自然交配を重ねた物が今のドイツのスペルト小麦だと思います

（オーストラリアでも沢山栽培されています。私たちの友人もオーストラリアでスペルト小麦を育ててい
ます、そのお話もまたご紹介させていただきます）

ただ少なくともパンコムギの直系の品種ではなさそうです。

まあだからと言って、スペルト小麦ダメなわけではなく、もちろん有用性は非常に高いのは間違いありませ
んし、古代から脈々と続く、もともと小麦が持っていた資質を受け継ぐ品種には間違いありません。

スペルト小麦普及委員会がお勧めする物はドイツ種子会社から直接輸入した種子を使った、スペルト小麦で
す。今、北海道で栽培していただいている品種はフランケン・コルンというスペルト小麦の中の一品種です。

麦・小麦本当に深く調べれば調べるだけとても興味がでてきます。

世界中で食糧として普及している麦面白いですね。

今回はこの辺のお話も含め、具体的なスペルト小麦栄養価も含めお伝えできればと思います。

スペルト小麦普及委員会